

魅力あるまちづくりに関する報告書 ～魅力ある安芸高田市を求めて～

平成 29 年 3 月 30 日

安芸高田市まちづくり委員会
第 1 小委員会

安芸高田市まちづくり委員会
第1小委員会

委員長 井上 正樹
副委員長 新川 眞須子

委員 下甲 和彦
岡崎 和彦
久保野 哲也
佐々木 昌莊
津田 照美
藤井 敏法
辻駒 健二
用田 正
山崎 宅將
富永 淳子
三上 信行
澤田 つや子

はじめに

本市をはじめとする中山間地域の多くでは、農林業従事者の高齢化や後継者不足などにより遊休農地の増大や森林の荒廃が進行しています。また、高齢化の進行と併せて、地域を支える担い手である若者が都会に流出し、また、未婚化や晩婚化の進行などにより、少子化が加速しています。これらの要因は、様々な問題から生じてきていると思われます。

若者が定住し、農林業などの産業を支えてもらうためには、若者が住みたくなる魅力あるまちづくりを推進していかなければなりません。

本小委員会では、魅力ある安芸高田市にしていくための方策について、地域ごとに審議を行ったので、経過と結果について次のとおり報告します。

第1 経過

平成27年度

(1) 第1回小委員会

開催日時 平成27年9月11日（金）13：30～15：30

出席者 委員12名、事務局3名

会議内容 ①小委員会の検討テーマについて

(2) 第2回小委員会

開催日時 平成27年11月18日（水）13：30～15：30

出席者 委員11名、事務局2名

会議内容 ①検討テーマ「魅力ある安芸高田市を求めて」に関する意見交換

(3) 第3回小委員会

開催日時 平成28年2月5日（金）14：30～15：30

出席者 委員10名、事務局2名

会議内容 ①検討テーマ「魅力ある安芸高田市を求めて」に関する意見交換

平成28年度

(1) 第1回小委員会

開催日時 平成28年11月15日（金）13：55～15：15

出席者 委員10名、事務局3名

会議内容 ①検討テーマ「魅力ある安芸高田市を求めて」に関する意見交換

(2) 第2回小委員会

開催日時 平成29年1月20日（金）13：30～15：30

出席者 委員10名、事務局3名

会議内容 ①6町から出された提言について意見交換

(3) 第3回小委員会

開催日時 平成29年3月9日（木）13：30～14：45

出席者 委員10名、事務局3名

会議内容 ①報告書（案）について

第2 報告

現状

本市の人口は、平成16年の合併時から平成27年までの社会動態（一定期間における転入・転出に伴う人口の動き）を見ると別表2のとおり全ての年において社会減となっており、自然動態（一定期間におけると出世・死亡に伴う人口の動き）の自然減と併せて人口減少に歯止めがかからない状態にあります。本市の人口の社会減は、別表3のとおり高齢者を除き10代から20代が多くを占めており、若年層が定住したくなる魅力あるまちづくりを積極的に推進していく必要があります。

別表1（住民基本台帳人口）

年	人口 (4月1日)	増減
平成16年	34,617	
平成17年	34,358	▲ 259
平成18年	34,081	▲ 277
平成19年	33,724	▲ 357
平成20年	33,293	▲ 431
平成21年	33,001	▲ 292
平成22年	32,543	▲ 458
平成23年	32,115	▲ 428
平成24年	31,729	▲ 386
平成25年	31,257	▲ 472
平成26年	30,800	▲ 457
平成27年	30,368	▲ 432
平成28年	29,944	▲ 424

別表2（社会動態）

年	社会動態		
	転入	転出	社会増減
平成16年	1,181	1,239	▲ 58
平成17年	1,093	1,125	▲ 13
平成18年	1,176	1,256	▲ 80
平成19年	1,045	1,110	▲ 65
平成20年	1,070	1,112	▲ 42
平成21年	1,041	1,207	▲ 166
平成22年	937	1,048	▲ 57
平成23年	977	1,085	▲ 108
平成24年	993	1,074	▲ 81
平成25年	960	1,137	▲ 177
平成26年	1,033	1,172	▲ 139
平成27年	923	959	▲ 36

※広島県人口移動調査による

※各年とも前年10月から当年9月までの1年間の移動者数

別表3（年齢階層別人口の移動状況）

平成22年		平成27年		増減
年齢階層	人口	年齢階層	人口	
0～4	1,103	0～4	978	
5～9	1,217	5～9	1,126	23
10～14	1,340	10～14	1,205	▲ 12
15～19	1,499	15～19	1,305	▲ 35
20～24	1,501	20～24	1,309	▲ 190
25～29	1,459	25～29	1,220	▲ 281
30～34	1,590	30～34	1,311	▲ 148
35～39	1,808	35～39	1,573	▲ 17

40 ~ 44	1,559
45 ~ 49	1,556
50 ~ 54	1,945
55 ~ 59	2,477
60 ~ 64	2,741
65 ~ 69	2,248
70 ~ 74	2,024
75 ~ 79	2,232
80 ~ 84	2,005
85 ~ 89	1,336
90 ~ 94	640
95 ~ 99	216
100 ~	47

※住民基本台帳による

40 ~ 44	1,780	▲ 28
45 ~ 49	1,511	▲ 48
50 ~ 54	1,524	▲ 32
55 ~ 59	1,965	20
60 ~ 64	2,474	▲ 3
65 ~ 69	2,686	▲ 55
70 ~ 74	2,116	▲ 132
75 ~ 79	1,832	▲ 192
80 ~ 84	1,886	▲ 346
85 ~ 89	1,482	▲ 523
90 ~ 94	766	▲ 570
95 ~ 99	264	▲ 376
100 ~ 104	48	▲ 168
105 ~	7	▲ 40

提案

安芸高田市まちづくり委員会 第1小委員会では、本市の産業振興や地域を活性化していくうえにおいて、若年層をはじめとした子育て世帯などの定住が重要であると考えます。このため、子育て世代が定住できる魅力ある安芸高田市を求めて、魅力あるまちづくりに関する取り組みについて検討しました。その結果、各地域のそれぞれの特徴を活かしたまちづくりを次のとおり提案します。

1. 観光振興について

(1) 安芸高田市の観光について

ア 現状

神楽門前湯治村や湯の森、郡山城・猿掛城を始めとする文化財や、新たに発見された甲立古墳など多くの観光資源があります。

イ 課題

それらの観光資源が有効に活用できていないので、安芸高田市の魅力を十分に発信することは難しいと思われまます。

ウ 課題解決の提言

- ① 他の市町では、テレビ、ラジオでイベント等のCMを流しているところもあります。安芸高田市でも、CMを流しても良いのではないのでしょうか。また、観光パンフレットやリーフレットを、ジャンル別、季節別等にコンパクトにして、タイミングよく、もっと他の市町にも置いた方が良いと思います。
- ② 歴史民俗博物館が実施している「安芸高田の古墳探訪ツアー」に、産直市や安芸高田グルメなど加えて大々的ツアーにして宣伝をしてはどうでしょうか。また、歴史民俗博物館と郡山城めぐりや、他市町と共同しての「毛利と両川ツアー」等に加えて毛利と尼子の古戦場や墓等をめぐる「毛利VS尼子ツアー」等はどうでしょうか、歴女に受けると思います。
- ③ 四季折々に各地で咲く花がありますが、大農園づくりや花作りに助成金を出して

大規模な花園をつくり、世羅町がやっているような花めぐりツアーなどがあるとよいと思います。また、市花のアジサイと市木の桜で安芸高田市中を埋め尽くして、安芸高田市桜まつりとか安芸高田市アジサイまつりとか全市を挙げてできると良いのではないのでしょうか。

④ 宿泊施設について

主な宿泊施設は、「湯治村」と「湯の森（福寿荘）」しか有りません、ビジネスホテルの誘致または、空き家を利用しての民宿があれば良いと思います。

(2) サッカー公園とサンフレッチェ広島について

ア 現状

吉田町には、サンフレッチェ広島の練習拠点である「サッカー公園」が整備されています。そこには、試合や練習で利用する人や、サンフレッチェ広島の練習を見学するために市外からも多くの方が訪れており、安芸高田市におけるスポーツ振興の拠点施設の一つとなっています。

イ 課題

「サッカー公園」は、多くの利用者がいるにもかかわらず、観覧席や飲食場所または土産等が買える所が整備されていません。また、試合や練習などの施設利用者のための更衣スペースやシャワールームも整備されていません。

また、サンフレッチェ広島のマザータウンとして、年に1度スポンサードゲームや優勝祈願祭を開催されていますが、まだまだ認知度は低いと思われます。

ウ 課題解決の提言

観覧席や飲食できる施設の整備などの機能を充実させることにより、観覧者やサッカー合宿・練習などに訪れる利用者を増やすことが可能であると考えます。併せて、利用者の宿泊場所として、残念ながら廃止となってしまいましたが、「少年自然の家輝ら里」を民間による宿泊研修施設として運営を再開することで、両施設の利用者が増える相乗効果が期待できるのではないかと考えます。また、「サッカー公園」までの道路を市の花である紫陽花で彩る「紫陽花ロード」として、地域と一体となって整備することも有効な手段であると考えます。当地域は、当市の中心としての魅力ある地域づくりが求められます。

また、安芸高田市でしか買うことができないサンフレッチェ広島関連のグッズの開発など市をあげての取り組みが必要だと思えます。

(3) 土師ダム周辺の観光について

ア 現状

土師ダム（八千代湖畔）は、自然観光資源に恵まれ、湖の周辺は中国地方有数の6千本あまりの桜の名所として知られており、ツツジ、フジ棚、アジサイ、秋のコスモスなどを楽しむために多くの方が訪れています。また、平成14年にオープンした八千代の丘美術館は、15棟の独立したギャラリー（アトリエ付き）で構成されており、1棟1名の芸術家の個展形式で展示する、他に例のない施設となっています。

八千代町は100万都市広島市の北に隣接し、広島市中心部より約40kmしか離れて

おらず、自動車やバスを利用すると約1時間で来ることができます。広島市民にとっては手軽な日帰り旅行圏内となっています。土師ダムや八千代の丘美術館といった日帰り観光的性格を持つ観光施設にとっては、巨大な消費人口を近隣に持つ地の利は有利な条件であるといえます。

イ 課題

土師ダム周辺の桜は、県内での知名度はありますが、卓越した観光の目玉といったものは無く、観光客を強力に誘因する魅力に物足りなさがあります。現状では飛躍的に客を動員する力を期待することは困難であり、他の観光資源と組み合わせるか、新たな要素を付加することが必要です。

ウ 課題解決の提言

いきなり地域経済効果が大きい宿泊型観光をめざすより、まずは日帰り観光を充実させていくよう努力する方がコストは小さくて済みます。地理的利点を活かして、日帰り観光の内容の充実を図り、土師ダムの桜、本郷の棚田などの自然景観資源をめぐるコースや歴史民俗博物館、八千代の丘美術館などの歴史・文化コースなど、いくつかのモデルプランを作り、さらにその合間に昼食・スイーツを楽しんだりお土産を買ったりすることのできる産直市・道の駅などの情報を盛り込むことで、滞在時間の長時間化と客単価の向上をめざすことができます。

そして、内容の充実が図られた後に、神楽門前湯治村やたかみや湯の森等を利用した宿泊型観光へとつなげていくことが考えられます。

(4) 甲田町の観光について

ア 現状

甲田町には、美土里町や高宮町のように温泉宿泊施設はありませんが、JR芸備線甲立駅を起点とした日帰りハイキングの場所としては、『唯称庵』・『高林坊』・『宍戸司箭神社』・『国史跡 甲立古墳』及び『湧永満之記念庭園』、また、吉田口駅からは、『大土山』の登山が楽しめるなど、歴史的・文化的な価値が高い場所も数多くあります。

イ 課題

史跡や名勝地を訪れる人は、点としての観光で終わってしまい滞留するための拠点に欠けていると思われます。

ウ 課題解決の提言

甲立古墳整備の中で、市内の史跡や観光地の情報を発信するためのエリアや特産品の販売が可能な機能を整備することが望まれます。

(5) 向原町の観光について

ア 現状

週末や連休には、芸備線沿いの県道37号線を、広島市から北上する行楽の車が多く通行しますが、ほとんどの車は向原を素通りしてさらに北へ向かいます。大型商業施設や保養施設・娯楽施設及び宿泊施設はありませんので、停車するのは、コンビニや縄文アイスのひとは館と近くの野菜市や桜・カタクリ自生地・花ショウブ祭り等で

す。

また、幾つかのイベントは有りますが集客力に欠けています。

イ 課題

町の花としてカタクリ、ミツマタ、花ショウブ等は人気がありますが、集客は短期間で一過性のものとなっています。

また、小さな史跡等は各所に点在していますが、相互の連携は図られていません。

ただ、8年前に始まった「アートまつり in 向原」が、インターネットの力で広域の若者をひきつけ毎年活況を呈しており、今後のイベントの手本になると思われま

ウ 課題解決のための提言

- ① 今年もカタクリまつりと桜の満開が重なり、都会の人たちが喜んでいました。丸山公園の桜、小・中・高等学校の桜、三篠川の両岸にずっと連なって咲き誇っている桜は、まさに桃源郷の様です。桜の名所を目指しての北上をやめて、当地で花見をする人も多く見受けられました。市内には同様の所も多く、八千代湖畔の桜と合わせてもっと宣伝をしてはどうでしょうか。
- ② 郡山城等をめざす歴史愛好家の多くが芸備線で来られますが、駅からの案内が無いために道に迷うこととなります。そこで、市内にある全ての芸備線の駅に観光案内板を建てる事は出来ないでしょうか。併せて、駅にタクシーの電話番号が入ったパンフレットを常備することも必要です。
- ③ 県道 37 号線沿いにある、「吉田分れ」の標識だけでは不親切だと思います。郡山城や甲立古墳等への道順が分かるように看板等を設置していただきたい。

2. 移住・定住の促進について

(1) 八千代町への移住・定住について

ア 現状

八千代町は、広島市中心部より約 40 km、自動車・バスで約 1 時間という位置にあり通勤通学圏内です。雇用の場の創出を前提とした移住・定住の取組みとは異なった対策を検討することが可能だと思います。

イ 課題

空き家は、相当な修繕が必要と思われるものや痛みが激しく使用できないものが多く、また使用可能と思われる空き家でも、色々な理由で活用できないものが多いと思われます。

また、旧来の地縁的共同体社会では、内向きの強い繋がりが障害となって移住者と地元住民の間に信頼ある交友関係を築くのに時間がかかる事も有ります。

ウ 課題解決の提言

民間賃貸住宅へ入居を希望する若年夫婦を対象とした家賃補助等を行う事は出来ないでしょうか。

地域の価値観だけを押し通すのではなく、移住者の多様なニーズ、価値観を受け入れていかなければうまくいきません。移住者を永住者にして地域活性化の力となってもらうには、受け入れ体制をしっかりと整え、地域住民と移住者との間にある壁をできるだけ早期に取り払い、なじみ合うようにしていく必要があります。

また、移住者が地域で孤立しないように、移住者同士の横のつながり・移住者コミュニティができるように工夫する事も必要です。

(2) 向原町への移住・定住について

ア 現状

向原町は、広島市に隣接しており、自家用車やJRでの通勤通学、買い物等に便利で、町内に、保・小・中・高と揃っており、子育ての教育環境に恵まれています。特に、小・中学校は優れた教育実践により他地域から転入希望もたくさんある程です。また、向原高校は、近年見違えるほど安定した高校になっており、習熟度別固定学級も設置して、学力向上、進路実績向上にも努めています。

今のところ自然災害も少なく、治安も安定しています。住民アンケートの結果によると「とても暮らしやすい」という答えが圧倒的です。

イ 課題

相当数の空き家はありますが、使用に耐えないものも多く、I・Jターン者が利用するうえで難しい住宅が数多く見受けられます。そして、大型商業施設等がなく、医療機関も不足しています。

また、JRを利用して市外の高校へ流出しているのが現状です。向原高校は近年県内の中堅私立大学の合格者は増やしていますが、国立大学となると、なかなか合格できていません。複数の生徒が国公立大学に合格出来るようでないとなれば優秀な中学生は向原高校を志願しないし、子どもをもつ親も移住にしり込みをすると思います。

ウ 提言

最近、この地域で家を買って居住している数組の子供のいる若い夫婦も居るので、需要はあると思いますので、定住の受け皿を作ることが必要です。

また、有志が、それぞれの得意分野のボランティアで学習指導する仕組みづくりや、その為の施設として、公共施設の活用はできないでしょうか。

3. 子育て支援について

(1) 子育て支援について

ア 現状

子どもにとって遊びは生活そのものであり、遊びを通して、子どもは成長するといっても過言ではないと思います。

親子が遊びを通して関わり合うことは、子どもの成長にとって大切である。自然をいかしながら備わった環境の中で、たくさんの経験が得られることは、子どもにとって有意義であり、地域にとっても重要です。この意味で向原地区には自然環境をいかした子どもが遊べ、豊かな経験ができる施設が必要ではないかと考え、「子育て支援の一つ」として「児童公園」の設置について提案したいと思います。

- ① 向原町はJRや自家用車で、広島市内から一時間前後で来ることが出来、広島市内からの休憩ポイントになっています。
- ② カタクリ祭りや、ショウブ祭り、最近ではアート祭りも定着してきていて、その時には賑わいもあります。
- ③ 身近な生活圏内に、ゲートボール場等の高齢者用の広場はたくさん見ますが、児童公園等の子どもの遊び場がないのが現状です。

親子で、子供同士で、孫と一緒に等、コミュニケーションの場となる場所がありません。地域の子ども達がいきいきと育つことがこの地域に住む私達大人の願いです。地域の子ども達は行き交う人に笑顔であいさつしてくれます。こちらもすがすがしい気持ちになります。このような地域の子ども達と笑顔でふれあうことが地域活性の原動力となります。児童公園の設置が早急に必要であると考えています。

- ④ 安芸高田市の木はさくら、花はアジサイとなっていますが、市全域を見ても土師ダムを除けばそれらを楽しめる場所は少ないのではないのでしょうか。

向原町には、神ノ倉山、丸山公園、向原高校、三篠川沿い等、地域の人を楽しめるような所はありますが、そこは子どもが遊べる空間とはなっていないのではないのでしょうか。

地域の人々が集い、そこで子ども達が遊び、人々と係わりあえる機会を持てるようにすることは地域の活性化を促す強い力となります。数十年先を見据えた施設や環境づくりの一環とした植樹を始め、早急な取り組みが必要ではないのでしょうか。

イ 課題

- ① 今の子ども達は小さい時からゲームやパソコンと室内遊びが多くなっており、外で思いっきり身体を使って遊べるような場所が必要ではないのでしょうか。

「田舎はその辺がみんな遊び場よ」と言われることがありますが、少子化の今、近所に同年の子がいない、ましてや子どもさえいないという現状では、その辺でとはなりません。

ある程度の道具や広場を設置し、子どもが思いっきり遊べる場所は早急に必要です。

子育て世代の移住者にとっても、そういう広場があれば、移住の決め手の一つになると思われます。

同時に広島市内から県北に観光に行く人々が立ち寄る機会を増やすことにもなり経済効果も期待できます。

- ② ショウブ祭り、カタクリ祭りも保存会の皆様が、頑張ってくださいっていますが、高齢となりつつあり、祭りの継承が危惧されています。あと何年続けていけるのか、気になるところであります。

ウ 課題解決のための提言

- ① 丸山公園を整備して、展望台から一望できる所にサクラやアジサイの植樹をしてはどうでしょうか。

また、丸山公園のゆるやかな斜面をいかした、幼児も楽しめるようなアスレチック的な遊具（つり橋、トンネル、ロープすべり等）で冒険心を掻き立て楽しく親子で遊べるようにしてはどうでしょうか。

- ② 「農村交流館やすらぎ」の奥のふるさと河原公園には、すべり台やジャングルジム、ブランコ等の遊具を置くことや、夏は日除けになるような木々が全くないため、日射しを妨げる場所や植樹が必要です。また、「やすらぎ」で食事もできるため、地域の子どもだけではなく、広島市内からの家族連れも来て、「やすらぎ」での買い物客も増えると思います。このことは、地域の農産物や手作り品の販売拡大につながります。

4. 支所機能の充実について

(1) 支所機能の充実について

ア 現状

近年、全国的に少子高齢化が進む中で、地域での要援護者等の見守りや災害時の助け合いなどの地域課題が増大・複雑化してきています。また、人間関係が希薄になり、地域活動に対しても関心が薄れるといった状況もおきています。

イ 課題

私たちが、これから安心して、いきいきと暮らせる住み良い地域をつくっていくためには、地域住民が自主的に地域課題を解決していく活動や取り組みができる環境づくりが必要です。そのためには、その活動を支援する地域に根差した支所の存在が重要です。また、地域によってそれぞれ違った課題を抱えており、支所ごとに違った取り組みができることも必要です。

ウ 課題解決のための提言

これらの課題を解決するために、地域の実情に応じた取り組みが実行できるよう、支所の権限と予算の拡大、支所の人材の確保・育成をし、支所機能を充実することを提言します。

5. 地域振興組織について

(1) 地域活性化に対する取り組みについて

ア 現状

甲田町は、農業主体の地域で『梨』の生産と販売、営農集団による『米』・水耕栽培の『ねぎ』・『ちんげんさい』・『なすび』等の野菜の栽培が盛んな地域で、町内を国道 54 号線と県道 37 号線が並行に縦断し、また、JR 芸備線の 2 つの駅が有り道路網や公共交通機関に恵まれているといえます。

さらに、医療機関が充実しています。これからの市民の健康管理は、各家庭で行うことが求められており、各家庭での「かかりつけ医」・「かかりつけ薬剤薬局」を自らが選定し、日頃から、健康管理に気をつけなければならないことを考慮すると、医療機関の存在は大きいと思われまます。

イ 課題

全国的な人口の減少と少子高齢化に伴い、町内人口は合併時から 832 人減少し、世帯数は逆に 188 世帯増加しています。このことは、高齢者の世帯が増加していると予想され、高齢者が安心して暮らせる仕組みが課題となっています。

また、常会の世帯数の減少や高齢者世帯の増加に伴い、常会機能が維持出来ず解散せざるを得ない地域もあります。

現在、地域の核となるべき「地域振興会」の組織が地域振興や自主防災機能を備え、地域になくってはならない存在として確立しています。しかしながら、組織自体が地域の取りまとめ団体という任意の団体であり、地域自治の権限もない、管理責任もはっきりしない状態で、組織のありようが問われています。

行政側もしっかりしたスタンスで対応すべき責任もあるのではないのでしょうか。

ウ 課題解決のための提言

各町において『地域振興会のあり方』を議論するとともに、行政自体が『地域振興会』をどう活用するのか、そのためには、『地域振興会』を責任ある団体としての位置づけをはっきり示し、行政と連携し、地域の課題に取り組むような方向性を検討すべきではないかと考えます。

甲田町は、県道 37 号線を中心とした小原地域、高田原地域、国道 54 号線を中心とした甲立地域という、それぞれの特徴を持つ地域で構成されており、主に、農業を経済基盤とする地域です。

今後は、それぞれの地域の特性を生かし、互いに連携し、高齢化が進む地域をどういう形で存続し、地域の活性化を図っていくか、地域振興連合会が中心となり、地域の歴史的資源の活用と情報発信を積極的に行うことにより、『住み慣れた地域で安心し、お互いが助け合える』まちづくりを考えていきたいと思えます。

6. まちづくり委員会について

(1) 組織の継続と形態の検討について

ア 現状

平成 16 年 3 月に高田郡内の 6 町が合併し、住民と行政の協働を基調とする安芸高田市のまちづくりを推進するために、平成 17 年 4 月 1 日に『まちづくり委員会』が設置され、行政とともに活動を続けて来ました。この委員会は、合併後 10 年間ということで設置されましたが、東日本大震災にともなう法律の一部改正もあり、期間を 5 年間延長し現在では 15 年間として取り組みを進めています。

イ 課題

その期限が近づく中においても、市に対し毎年新たな提言を行っている状況もあります。また、過去に行った『提言』は、地域住民の役に立っている事項もあり評価すべきと考えます。そして、少子高齢化が進む中、これからもまちづくりの視点での地域課題が更に増えていくことが予想され、本委員会の役割はまだ重要であると思われれます。

ウ 課題解決のための提言

協働のまちづくりを継続するために、「まちづくり委員会」を継続することが必要です。

しかしながら、組織の形態を再度検討し、『各町の地域振興会が中心となり』、課題解決と市行政並びに市議会に働きかけが出来る協議会への転換を検討していく必要はあると考えます。

また、協議会の人員を精査し現在は各町から 5 名選出していますが、それを 3 名とか 2 名にすることにより、予算の効率的な活用も図ることが出来ると思われれます。

おわりに

本市の 6 町ごとに、それぞれ違う特色・個性を生かしたまちづくりを進め、それぞれが交流・連携していくことで相乗効果が生まれ、市全体の魅力向上につながることに

す。今後も、限られた財源を効率よく活用していくためにも、住民と行政の協働によるまちづくりを推進し、それぞれが担うべき役割を認識しまちづくりに取り組んでいくことが大事であり、住民一人ひとりが誇りと愛着を持って住みたくなる魅力のあるまちづくりを常に求めていく必要があります。

安芸高田市まちづくり委員会
(第1小委員会)

〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791
TEL 0826-42-5612 / FAX 0826-42-4376